産業厚生常任委員会会議録

１　日　　時　　平成２７年５月１３日（水）
　　１０時００分開会　　１１時４０分閉会

２　会議場所　　役場３階第１委員会室

３　出席議員　　委員長：奥秋康子　　副委員長：原　紀夫
　　委　員：桜井崇裕、佐藤幸一、安田　薫、西山輝和
　　議　長：加来良明

４　事 務 局　　事務局長：佐藤秀美　係長：渋谷直親

５　説 明 員　　商工観光課：課長　高金信昭　　参事　當瀬一夫
　　課長補佐　佐々木　亘　　観光振興係長　吉田寛臣

６　議　　件
（１）所管事務調査について
　　観光資源再生について

（２）その他

７．会議内容　別紙のとおり

産業厚生常任委員会【開会１０：００　閉会１１：４０】　所管事務調査

委員長（奥秋康子）：会議を始める。今日はレジメにあるとおり所管事務調査として観光資源再生についての調査を行う。担当課から職員が出席しているので職員の紹介を行った後で資料の説明をお願いする。その後質疑意見等を出してもらった後にまとめを行って本日の会議は終了する。それでは紹介からお願いする。

高金課長（商工観光課）：（出席職員の紹介後、別紙資料に基づいて説明を行った。）

委員長：説明をしてもらったが、これは新たな再生基本ビジョンであるのでそれぞれの議員から意見質疑があると思うので出していただきたい。意見の出し方は全体に対してか又はページごとに出した方がよいか。

原委員：全体からの質疑を出したほうと項目ごととでは担当課からはどちらが回答しやすいのか。

高金課長：これは観光だけの問題ではなく、町づくりの一環としての取組でもある。全体的のフレームの中で出していただいた方がよいのではと思う。

桜井委員：観光客をもてなす機運を構築するという意味で、町内のコミュニティーの活性化など様々な環境作りということだが具体的なものはどうなのか。商工会との連携や農協との関わりなど意見は色々持っているが、合致したような事業は行われていない。これからどうやっていくのか。土壌づくりや機運づくりを聞かせてほしい。

高金課長：もてなしについては、３ページに示した３つの事項を基本的なとらえ方としている。必ず人が関わってくるので、色々な人が集える状況を構築したいと考えている。団体へも協力をしていただける状況を構築していきたい。１・２年で構築できるものではないと思うが、いつも努力すると言っている中で目標を達成できていないのでお叱りを受けてきた。やり遂げる意識を忘れずに率先してやる行動をとりたい。

桜井委員：もっと町と農協の関係をよくしていく必要があると思う。議員からも協力する話をもらっている。観光や町づくりに議員自ら出ていくことが必要だろう。

高金課長：心強い話をいただいた。４月１日から商工観光課として独立して業務に関わることになった。いままでは産業振興課の一部として農協や商工会と関わってきたが、改めて動けるという形になっている。できるだけ出向いて農協や商工会、観光協会は事務局を持っているが、できるだけ話をできる環境を作っていきたい。農協とは企業の誘致について話を進めているところもある。

原委員：桜井議員が言われたところが自分も大事な部分であると思っており、住民からは「道の駅を作る話になっているがいつできるのか」などと聞かれることがある。説明を聞けばまだ先の話しであることがわかった。高速自動車道の近くに交流施設を作ると以前新聞に載ったことがあったが、話の段階で先取りして新聞などで外に話を出してしまうと、町民としてはもう話ができていると思ってしまのではないか。そういうところが今言う連携ができていないところにもつながっているのではないか。商工観光課が独立し、計画を立てて達成するためにはトップの方にも軽はずみに「なにをやる。これをやる。」などと口外されては困ると言ってもよいと思う。１・２年先に道の駅を作ることが決まっての話しなら良いのだがそれはないとのことなので、桜井委員が言われたとおり、商工会・農協・農業者・町民のみんながどうしたらよいのかと考えられるような方法を是非考えてもらいたい。最後に聞こうと思ったが、ビジョンが策定されて前期・後期の計画期間はどのくらいかけていく考えなのか。

高金課長：資料８ページに掲載されているところだが、第一段階、第二段階が前期後期ということでとらえてもらいたい。第一段階の前期計画については、時間がかかるだろうということではなく私どもで素案を作り、新たな視点に立ち既存の道の駅では代わり映えがしないものでもあるので清水の交通の往来を使えるような新たな視点を持ったものを考えたいと課内で論議をしている。素案ができていつパブリックコメントのようなものができるかというと平成２８年度から実施したいという思いがあるので、できるだけそういうことを早期に考えて進めていきたい。考えが斬新であれば他の団体が足踏みするようなことが想定される。来年度からと言ったが、協議に時間を要することが必然となって、遅れることもあるということは気に留めておいていただきたい。

原委員：最終的に第二段階の計画ができるのはいつ頃か。
高金課長：内部では第二段階の想定までできていない。第一段階の検証をしっかりしていかなければならないこともある。検証の中には町民の声を取り入れて、清水町がこれまでの財政事業もあり事業を縮小したりしてきた経過を踏まえて、同じ轍を踏まないように慎重に考えなければならないと思っている。
原委員：今言われた過去の失敗について、スキー場や温泉がある。新たに道の駅や他町の方が見て驚くような施設ができたとしても相当膨大なものとなる。町民からの同意も難しいところもあるだろう。第１段階で緩やかなスタートを切って清水公園を中心とした既存の施設から、輪を広げていこうとしていると思う。ペケレの森と清水公園を一体としたことが言われているが、一体として交流人口が増えるようなものができればいいが、駐車場がなければ話にならないこともある。そのあたりの考えはあるのか。
高金課長：ペケレの森の整備については、既存の施設が色々と閉鎖していることはわかっている。再整備についても過去に答弁したことがあった。基本的にはペケレも含めて考えていかなければならないが、四景＋１ではペケレの森は現在含まれていない。含めるという考えは白紙となっている。駐車場についてはコストがかかることになる。観光としてペケレの森が必要なのかどうかも改めて協議が必要になってくる。別に真剣に考えなければならないと思っている。
原委員：国道 38 号線、274 号線を含めて町民の方々以外の人たちを止めて、清水町は「すごい」と言わせるためにはどうするのかというと、より集客力のある地域に集合して施設を作ることが理想と思うが、考えていることはそういうことなのか。
高金課長：そういう考えも一つだと思うが、そういう施設になると、国道沿いでは町民の利便性が低くなるのではと思う。もし第一段階が他の形で成功したらその延長線上にはないのかなと思っている。町内の業者は色々と努力をして頑張っている。それをそういう路線上に出てくることによって、悪影響が及ぶのではと考えられる。影響を回避しながら誘客の路線の線引きを考えなければならないと思っている。
原委員：四季塾が今年４年目で初めてすごいことを考えていると思う発案があった。それは牛の駅というものだったが、最終的には講師も清水町でやらないなら他に持っていくとまで言われていた。方向付けとしては農家の力を借りるなどの方法を変えれば相当いい発想になるのではないかと思う。聞いていた町長も重く受け止めていたところもあったと思うがこの件で何か話はあったのか。
高金課長：牛の駅の名前は聞いたことはある。ビジョン策定の時にも話題に上がっていた。しかし、生き物の管理を含めて現実は厳しいという結論になった。斬新な考え方だとは言われていた。
原委員：現実的な問題で一番ネックになるのはなにか。
高金課長：人員的な問題で、行き物の管理が１番に挙げられていた。
桜井委員：最近の牛の共進会場ではイベントを行うようになって一般町民や市民にも来てもらえるようなものとしている。最近もブラック＆ホワイトショーの中でも乳製品を売っていたりしていていいものだと思っていた。国からは６次産業化や地方創生と言われている中で各自治体においては何かをしなければならないということで検討が行われている。本町においては、交通の利便性の良い清水町になぜ道の駅がないのかと町民の中に共通して思いがあるのではないか。できないのであれば通過型の人たちを何とか町の中に呼び込めないか、少し休んでもらえないかということは共有して思っていることだと思う。是非とも試みからでも始めてもらいたいと思う。余談だが、国の機関で働いていた方と話しをしていた時に、「清水には高速道路を下りてでも使いたくなるようなトイレを作ったらどうだ。」と言われたことがあった。それも一つの考え方だと思うし、何かきっかけを作ることも大事なことではないかと思う。
高金課長：桜井委員からの提言は深く受け止めたいと思う。25 年度に策定した構想のアンケート調査を行った時にも道の駅的な回答が多くあった。ビジョンとしても根幹として盛り込んである。具体的なトイレの話しもあったが、きれいで使いやすいという部分については利用頻度が高くなるのは重々承知をしているのでそういう考え方も何とかできればと思っている。
原委員：商工観光課が新たにできて、小樽商科大学からも研究員まで力を貸してくれている体制となっているが、着任してまだひと月半が経っていない中で、研究員の當瀬さんから。

北海道からですか。失礼しました。清水町の印象を聞かせていただけませんか。

當瀬参事：北海道庁から２年間の派遣ということで赴任している。私は清水町に来る直前までは自然エネルギーに関わっての事務を行っており、平成 20 年くらいにはフロイデ温泉の繰り上げ償還に関わっての事業も行っていた。十勝支庁にも２度勤務しており、清水町には好印象を持っていた。清水町は十勝のゲートウェイと思っている。清水に来てからは町内で 56 件ほどある店舗のうち 33 件ほど食べ歩いた。食が素晴らしく、素材の良さを感じた。地域グルメとして屈指のものと思っている。まだまだいいものがあるのでどのように道内を観光する方々に PR していくのか。昨年９月に北海道がまとめた北海道の観光の現状を見ても、全体のうち約９割が道内圏の方である。道内を６圏域に分けているが、東日本大震災以降に入込み客が伸びているのは道内では十勝圏だけとなっている。国道 38 号線、274 号線と道東自動車道が交錯している清水町はそれだけ可能性の固まりともいえる。在任中には持っているものを出しながら新たな発想を熟成させてみなさんの思いと符合させて実のあるものにしたいと思っている。

安田委員：自分も當瀬参事の話を聞きたかった。国際大学の吉岡先生だが、自分も参画しているが、特に意見を受けたりしていれば話を聞かせてほしい。

高金課長：吉岡先生は基本構想とビジョン策定に力を貸していただいている。清水町のことはかなり詳しい方である。観光の会議の意見を集約するにあたり、方向の修正を主にしていただいており、コンセプトのタイトルやビジョンについて意見をもらっている。

安田委員：町は観光協会の事務局をやっており、連携がよいと思われているが観光協会や商工会が独自で清水町をどうしていくのかというプランを持っているのかどうか。他地域へ行って勉強して参考になっていることがあれば教えてもらいたい。

高金課長：それぞれ研修を行い清水町のために努力していただいている。共有できるものは共有し、商工会は商店街の活性化として町と協力して商品券の還元を町民のために行っている。更には町民の購買に関しては、開店の仕方や販売について努力をしている。観光協会は協会員の独自性は出しづらいが、今回ビジョンにある部分で情報交換を行っている。

桜井委員：何か行動をするためには努力と情報発信が必要だと思う。最近アスパラを活かしたイベントを農協が実施している。最初は人が集まらなかったが、PR の効果もあり現在は大きな催しとなっている。事業を行うには町民自らが努力をして行っていくことも大事だろう。

高金課長：今後の課題として検討していく。

安田委員：関連して。うまく絡み合わないのはなぜなのか。農協が独自で行っている事業だから商工会や観光協会、役場は応援しづらいのか。

高金課長：核心はわからないが、農協独自で行っているものだと思っている。町としては直接的な関わりはない。広報紙を使った PR などできるかわからないが、個人的にはできるのではと思っている。側面的な協力が可能ではと思っている。

佐藤委員：初めてこの構想をみたが、素晴らしいものだと思った。ぜひ実現してもらいたい。
私は商工会の観光委員長等も経験したこともあるが、過去には商工会、農協、観光協会、町と一体となって事業を行ったこともあった。町民からも喜んでいただいていたと思う。そういった中で、今後も続けていかなければならないという思いもあったが、農協が単独事業をいろいろとやっていて、それには参加できないという意向があって４者のお祭りがなくなった。さみしい思いもしたが、そういったことで断念した。先ほどもいろいろと話をされていたが、38 号線、274 号線、高速道路と３本の主要道路が通っているので、ここで何かできないか。主要道路が３本通っているのだからトイレは必要だと思う。トイレに寄ったらタバコも買ってもらえて、清水の町も少し潤うのではないか。そこに道の駅などの施設が建っていれば清水町も盛り上がるのではないか。

高金課長：佐藤委員とは一緒に事業を行ってきたことがあるので思いはすごく理解できる。桜井委員が言っていたトイレについて、冬期間は日勝峠のトイレが利用できないこともあり、通年で利用できるトイレの設置等を検討していきながら道の駅、情報発信につながるものかどうかは考察しながら考えていきたい。

西山委員：平成 28 年度にパブリックコメントをやりたいと言っていたが、もっと早くできないのか。

高金課長：今回、常任委員会で報告したので６月のお知らせ版に掲載し、第一段階の状況を経て町民のパブリックコメントをして、第二段階につなげるときのパブリックコメントとしたい。
西山委員：今までいろいろと聞かせてもらい、計画も分るし我々も考えている。農協、商工会、観光協会、町と三位一体になって考えないとこれを実施するのは難しい。若者が一体となって集まって、商工観光課がそれをまとめ、一緒に話ができる場を設けないと年寄りばかりが考えても進んでいかないと思う。
高金課長：意見を聞く場を設定することは必要と深く考えている。始点となるのは商工観光課なので、産業振興のためにそういう団体の方と話をする場を設ける必要があると考える。私たちが単独でやるとテーマが狭まっていくので、全体的に町をどうするのかを考えた時に、四季塾やそういう団体がやっていることの延長線のなかで切磋琢磨しながら論議をして町のことを考えたなかで、観光ビジョンのあり方を検討するようにつながっていければ理想的だと思っている。
西山委員：今、外に出て牛玉丼を宣伝しているが、町の中はどうかというとパッとしない感じを受けている。観光客が清水町に来て食べようと思っても提供数が少ないからでは普及していかないのでは。
吉田係長：食数の限定をしているのは山女魚園だけ。
安田委員：目分料は。
吉田係長：目分料は提供をやめている。
原委員：目分料が減っただけか。
安田委員：いや、やめただけ。
原委員：提供しているのは９店舗ではなかったか。
佐藤局長：委員長、記録ができなくなるので話を整理してください。
委員長：係長から説明をお願いする。
吉田係長:提供を行っていないのは、目分料と石倉屋はやる人がいないので休止中となっている。
西山委員：食数の制限は。
吉田係長：制限があるのは、御影の山女魚園だけ。
桜井委員：先日山女魚園に芸能人が来ていたが、どんな撮影か。
吉田係長：関東だけで流れる番組で、お笑い芸人の日村さんが清水町のグルメを食べ歩くというコーナーの撮影で１日清水町にいた。町民に清水町のグルメといえば何かと聞いて、牛玉丼、牛トロ丼、美蔓亭のサフォークラーメン、農協のニンニクと回って撮影をした。小学校にも行って子どもたちにもインタビューをした。５月 18 日と 25 日の２週に渡って放送圏は関東だけだが、清水町だけの話題のみで放送される。５月 26 日にフジテレビの「発見なるほどレストラン」という番組で全国のすごい食材でハンバーグをつくるという企画で、十勝若牛が選ばれたので、先日取材に来ていた。
委員長：他に意見はないか。無いようなら私から１つ。このビジョンはとても素晴らしいビジョンだと思う。これから個別の計画が徐々に進行していくが、今後の実施にあたり計画の変更等もあるかと思うが、町民の広い意見やアイディアを計画のなかに取り入れて町民に支持をされる資源再生基本ビジョンの実施を目指してほしい。
高金課長：委員長に言われたことの責任を重く受け止め、誠心誠意努力していかなければならないと考える。このビジョンはここからが始まりということで、一つ一ついろいろなことを考えていかなければならない。責任の重さを考えて、町民の考え方も取り入れながら理解されるものにしたい。
委員長：全体として何かあるか。
（なしとの声あり）
委員長：以上で、担当課の説明を終了する。
【１１：１８　説明員退席】

委員長：休憩をとるかそのまま続けるか。
安田委員：休憩してほしい。この後何をするのか。
委員長：まとめを行う。どのようにまとめたらよいか。従来だと委員長・副委員長に一任というのがあったが、全体でまとめてもよいし交代制にするのもどうだろうかと思う。休憩する。

【休憩１１：２０】
委員長：会議を再開する。
【再開１１：３０】
委員長：先ほど担当課から説明をいただき、質疑をした。このビジョンに対する実態について調査と把握をするにあたり、報告をどのようにするべきか。構想に対しての問題点等があれば出してほしい。
桜井委員：所管事務調査で聞き取りを行ったが、産業厚生常任委員会として今後どのように展開していくかが見えない。今回の聞き取りでこの案件は終わらせるのか、それとも継続して調査や意見を聞く場を設けるのか。
委員長：計画はわかったが、これらについて今後委員会として継続して調査を行う必要があるのかどうかも含めて皆さんに伺う。
原委員：第一段階、第二段階ということで、平成 28 年度から第一段階を始めたいということで担当課の方から積極的に進めたいという話があった。少し余裕をもってあげて、温かく見守ってはどうか。
委員長：担当課も積極的に進めるということで、温かく見守るということで、これからの調査はやらなくてもいいのではないかという意見だが他にはどうか。
原委員：第一段階で、公園や商業施設の一部を活用することなどが計画されて、予算に関連してくると今後議会を経過することになるので、その中で問題などが出てきたときには積極的に取り上げてやるべきだと思う。
委員長：今のところ大きな問題はないという事でよいか。
原委員：いろいろな意見が出ていた。例えば町民にもっと溶け込んだものにしなければならないとか、トイレのような大きなものを作ったらよいのではとか、農・商・公の連携が重要だという事に対して最大限の努力を求めるといったことを委員会として報告していく事でよいのではないか。
安田委員：賛成する。
委員長：今回の所管事務調査は今日の開催だけで済ませて報告をしたいと思うが、よろしいか。
（いいとの声あり）
委員長：そういうかたちで報告を行うことにする。まとめはどうするか。
安田委員：皆さんの意見の記録を自分はとっていないので、委員長、副委員長と事務局でまとめて報告していただきたい。
加来議長：事務局は入らない。
原委員：大きな構想なので委員長と副委員長だけでははずれてしまうところもあるので、是非入れてほしい意見はあるか。
委員長：是非ここだけは外さずに入れてほしいことはあるか。
桜井委員：先ほどから言われたことをまとめていれてもらえればよいと思う。
委員長：まとめは委員長と副委員長が行うことでよいか。
（お願いするとの声あり）
委員長：観光資源再生の調査については終わることにする。その他として何かあるか。
（なしとの声あり）
委員長：以上で、産業厚生常任委員会の所管事務調査を終了する。

【１１：４０　閉会】